

授業概要

教師の主たる実践である「授業」について、児童・生徒の学びのプロセスを踏まえながら、主に心理学を背景とした学力論・授業論・教育方法論を学ぶ。授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みを学ぶとともに、その知識が教育実践でどう活かされるのかを考える。また、我々が受けてきた「授業」における教授や学習のあり方についても改めて問い直していく。授業の実践事例をもとにディスカッションを行い、「よい授業とは何か」、「質の高い学習とはどのように成立するのか」について考える。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（教育における方法とはどういうものか）
第 2 回	これからの子どもたちに育みたい資質・能力
第 3 回	教師に求められる授業力とは
第 4 回	日本の子どもの学力の特徴
第 5 回	メタ認知を育てるには
第 6 回	学習の動機づけを高めるには
第 7 回	授業をつくるということ
第 8 回	学習環境をデザインする
第 9 回	教材をどのように作るか
第 10 回	授業を支える指導技術
第 11 回	主体的・対話的な学習過程
第 12 回	学習目標をどのように設定するか
第 13 回	学力をどのように評価するか
第 14 回	授業の魅力・効果・効率を高める ICT
第 15 回	情報活用能力を育てる
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・ 授業づくりのために必要な基礎知識や枠組みについて理解する。
- ・ これまで自分自身が学習者として経験してきた「授業」や、教育実践を問う視点を獲得する。
- ・ 多種多様な学習者や環境に応じて、どのような教育方法が効果的かを自ら判断して選択できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、コメントを書くなどのワークを毎回課すので、積極的に授業に参加すること。出欠は厳密に記録にとるので、そのつもりで受講すること。

予習・復習

予習として、予め配付する資料に目を通しておくこと。
また、資料と授業の内容を併せて復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）と期末試験（60%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業で課すレポート等の評価および提出状況と、授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。

<参考文献>

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編 文部科学省 東洋館出版社（2018）